



神奈川大学フロンティアクラブ会報

発行日 2001年4月19日
編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ広報委員会
委員長 白井 宏尚
事務局 神奈川大学内
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL. 045-481-5661
FAX. 045-491-7915

第6号

「継続は力なり」神尾代表が強調

平成一三年度KUFC総会開く

平成一三年度の神奈川大学フロンティアクラブ(KUFC)総会が三月二十四日(土)午後、神奈川大学で開催された。総会に先立って、最新の耐震技術を施して完成したばかりの新校舎の見学会と田畑光永神奈川大学経営学部教授による「二十一世紀のアジア、とくに日中関係について」の講演会が開かれた。

総会では、神尾秀雄KUFC代表の挨拶に続いて来賓の藤本盛久神奈川大学理事長が



挨拶したあと議事に入り、平成一二年度の事業と決算報告を承認、一三年度の事業計画と予算を決定するとともに全役員の時給を全会一致で承認した。冒頭、挨拶に立った神尾代表は「神奈川大学フロンティアクラブは、母校の健全な発展を心から願う卒業生の集まりであり、素朴なボランティアの会である。少子化社会で大学は、困難な時代を迎えている。われわれメンバーは、フロンティアクラブの目的に沿って側面から応援したい。継続は力なりである。継続によって会の力が強くなる。皆さんの協力をお願いします」と訴えた。

続いて藤本理事長が「フロンティアクラブの皆さんには、大学の再開発計画に伴う募金や産官学活動をはじめ学生に対する就職や奨学金などで強力なご支援をいただき、感謝している。大学は平塚問題の整理を終え、安全第一の耐震対応の校舎も完成した。残るソフト面が大切である。中身

が大学の評価につながる。先生方に魅力ある教育をしていただけるよう全学を挙げて努力する。フロンティアクラブの発展と皆さんの末長い大学への支援を期待している」と挨拶した。このあと、神尾代表を議長に選出して議事に入った。平成一二年度の事業報告と決算報告が事務局から、役員人事については、神尾代表から現在の役員に引き続きお願いしたいとの提案があり、いずれも承認された。続いて一三年度の事業計画について五つの委員会から、予算については事務局から説明があり、それぞれ原案通り承認された。事業計画のなかで広報委員会からは、今年最初の神奈川大学フロンティアクラブ会報(第六号)は、予定より一カ月延びて四月になると報告があった。これは一三年度総会が雪の影響で延期になったのが理由である。さらに会報の中の「会員だより」欄への積極的な投稿の呼びかけがあった。

再開発事業募金は、三月末でいったん募金を締め切ったうえで、新たに四月一日から一五年三月三十一日までの二年間に総額五千万円を目標に募金を募る。神奈川大学奨励奨学金と村橋・フロンティア奨学金も一三年度以降引き続き募集する。再開発事業募金は、新一号館一階に募金者の名前を記す銘板を設置して永久保存する。就職支援委員会からは、大学の就職部と協力して事業を進める方針を説明。産官学協同委員会は、今年から「産学フロンティアサロン」を随時開催する計画を説明した。これは大学が持つ知的財産を卒業生に活用してもらう方策の一つで、具体的にはさまざまな分野で高度な専門知識を持つ神奈川大学の先生方に講演してもらい、先生方と卒業生産業者が気軽に情報交換する場を設ける。既に第一回の産学フロンティアサロンを三月一四日に神奈川大学一六号館で開催した。講師は工学部応用化学科の山村博教授で、無機結晶に種々の方法で格子結晶を導入することにより新しい機能が発現する「結晶格子欠陥のお話」をテーマに取り上げた。年間五、六回のペースで同様のサロンを開催する。総会終了後、完成したばかりの新一号館八階で、懇親会を開き、なごやかな談笑のひとときを過ごした。

会員だより

『質実剛健・積極進取』を国政に



参議院議員 斉藤 勤 (昭44法卒)

知恵をいただきました。やはり、公務員職場だけで育ってきますと、時として視野が狭くなったり、経験が足りなかつたりすることがあります。そんなとき、神大卒業

生の皆さんのおかげで、政治活動の中でも「異業種交流」が可能となったことは、政治家として得難い財産になっています。今、国会議員として国政を

見ると、残念ながらいまだに金権腐敗の体質がはびこっています。そして、政治決定の多くが後ろ向き、内向き、問題先送りであります。神大のモットーである「質実剛健、積極進取」は、問題への対処の姿勢を簡潔に指し示しています。九〇年代のバブルで日本中が浮かれ、その後「失われた一〇年」などと言われていますが、富貴に流れず質実剛健を目指すべきであること、そして後ろ向きでなく新しいものを積極的に取

り入れ、あらゆる問題に十分な社会をつくりあげていくことを目指すべきです。横浜市議会議員を二期つとめたあとの参議院での活動も今年度六期目になり、夏には二期目の選挙の洗礼を受けることになりました。二月二十六日には「神奈川大学有志による斉藤つよし後援会」の結成総会を開いていただきました。神大卒業生の名譽とモットーに背かないよう精進していくつもりです。

本号の「会員だより」は、斉藤勤参議院議員にお願いした。斉藤さんは、横浜市役所に勤務しながら横浜商業高校、神奈川大学第二法学部を卒業した努力家である。横浜市議会議員を二期つとめたあと、六年前、神奈川選挙区から参議院議員に立候補して見事初当選した。参議院では、地方行政委員会、内閣委員会、外交防衛委員会などに所属、内閣委員、金融・経済委員、参議院運営委員会理事と広範囲に活動し、平成一一年八月からは交通・情報通信委員長を務めた。激務を精力的にこなす傍ら常に家庭を思いやる愛妻家でもある。奥さんとは、市役所時代に知り合った職場結婚だが、「夜学に通った神奈川大学の校舎は、妻とのデートの待ち合わせ場所でもあった」と明かす。カラオケが大好き。實力はプロ級とかで、CDも二枚出している。カラオケ大会で知り合った作曲家から「オリジナルを作らないか」と誘われたのがきっかけだ。どうやら硬軟両刀使いのたくましく神大OBである。政治も大学も難局到来の中、斉藤さんの頑張りを期待する。

一三年度も一〇人に授与 村橋・フロンティア奨学金

平成一二年度村橋・フロンティア奨学金の授与式が昨年二月二〇日、神奈川大学一六号館で行われた。受賞学生は、法学部、外国語学部、理学部、工学部各二人、経済学部、経営学部各一人の計一〇人。藤本盛久学校法人神奈川大学理事長から一人ひとりに奨学金三〇万円と奨学生章が手渡された。村橋・フロンティア奨学金は、神大卒業生の村橋三好氏が寄付した基金をもとに設立された。今回が二回目の授与式。フロンティアクラブは、

この奨学金を今後継続的に充実させるため、クラブ会員に募金の協力を呼び掛けた結果、これまでに二件八七〇万円の寄付金が集まった。この寄付金は、全額が村橋・フロンティア奨学金基金に組み入れられた。一三年度から一人当たりの奨学金を一〇万円増やして四〇万円にし、一〇人の学生に授与する方針である。この基金への寄付は、今後も受け付けるので、協力をお願いする。奨学金授与式で挨拶した藤本理事長は、この奨学金設立

の経過と意義を詳しく説明したあと、「二〇〇〇年という記念すべき年に、第二回の村橋・フロンティア奨学金の奨学生に選ばれた皆さんは、村橋先輩をはじめフロンティアクラブの先輩方が皆さんに期待するあつい思いを十分に理解していただき、二世紀をしっかりと立つ気概で勉学と人格形成に励んでいただきたい」と激励した。受章者を代表して挨拶した法学部自治行政学科二年の吾妻清美さんは「村橋・フロンティア奨学生になれたことを大変誇りに思っています。大学生活の中で、常に学ぶ姿勢が大事であることを知りました。多様な考えを持つ多くの学生との出会いによって自分



を刺激し、より柔軟な思考力や創造力をつくるきっかけになっています。村橋・フロンティア奨学金の報恩、感謝、功徳の心を忘れずに前を向いて精いっぱい努力していきたいと思えます」と感謝の言葉を述べた。

編集後記



# 母校の知的資産を活用 フロンティアサロンを開設

## 産学の交流活動、本格化

産学交流委員会の活動が本格化した。同委員会は昨年、神奈川大学産官学連携推進室と協力して「産官学交流シンポジウム」を開催したのに続いて今年からは、「産学フロンティアサロン」を随時開催して活発な産学交流の場を広げることになった。

産学フロンティアサロンは、それぞれの分野で高度な専門知識と技術を持っている神奈川大学教授陣に得意分野の講演をしてもらうとともに、卒業生産業人らとの交流の場を設けて、お互いに情報交換をして今後に役立てようとする試みである。

第一回の「産学フロンティアサロン」は、三月一日(水)、神奈川大学で開催した。講演のテーマは「結晶格子欠陥のお話」。無機結晶に種々の方法で格子欠陥を導入することにより新しい機能が出るという、一見難解そうな内容だったが、山村教授の講演は分かりやすく、好評だった。講演後、会食をしながらの懇親会に移り、山村教授を囲んで情報交換の輪を広げた。参加費は、食事を含めて一人三千円。

第二回は、五月一日(水)に実施する。場所は神大一号館で、時間は午後六時半から八時半までの二時間。講師は理学部化学科の大石不二夫教授。テーマは「循環型社会におけるプラスチック・ゴムの研究例」。

第三回は、七月一日(水)に同じ時間と場所。講師は工学部電気電子情報工学科の新中新一教授。テーマは「こまで来た電気自動車開発ーセンサレス・トランスミッションレス電気自動車の開発」。新中教授が開発した電気自動車は、最先端の技術を使っているもので、既にテレビや新聞で報道されている。

このあと、工学部建築学科の大熊武司教授と岩田衛教授が地震と台風防災をテーマに発足した「神奈川大学産官学共同研究プロジェクト」について詳しく解説、最新の地震装置を完備して新築したばかりの新三、四号館を見学した。大熊教授らの説明によると、このプロジェクトは、神大工



「産官学交流シンポジウム」には、五二人が参加した。この日は、三つのセッションに分けて交流シンポジウムが開催された。第一セッションは、午後一時から神大横浜キャンパスで実施。神尾KUFU代表が挨拶、大野・神大常務理事が「神奈川大学の産官学連携推進政策」について説明した。

多くの業績を残しており、チームの中核としての活躍が期待されている。

第二セッションは、このプロジェクトチームが実務を展開する横浜市鶴見区の横浜市産学共同研究センター実験棟を見学した。

第三セッションは、キリンビール横浜工場の見学と懇親会。ビールの製造過程を見学したあと、同工場のレストラで、「どれたて」のビールと料理に舌鼓を打ちながら歓談した。

多くの業績を残しており、チームの中核としての活躍が期待されている。



# 新築の二棟が完成

## 横浜キャンパスの再開発

神奈川大学横浜キャンパスで進行中の再開発事業は、二月に新三・四号館が竣工した。これで既に竣工済みの人間科学棟、新三・四号館の二棟と合わせて、計画した三つの新棟全部が完成した。今後は、既存校舎の一部改造と公開空地の造成を行い、来春には予定したすべての再開発事業が完了する。

完成した三棟は、いずれも阪神・淡路大震災クラスの大地震に十分耐えられる強固な構造になっている。とりわけ工学部が入居した新三・四号館は、地下部分に積層ゴムアイスレータと呼ばれる特殊な免震装置が設置してあり、最新の地震対応技術を駆使した建築になっている。

最後に完成した新三・四号館は、地下一階、地上八階建て。大学の本部・事務部門がここにいった。一階から三階までは、事務局各部が入居、一階中央には二層吹き抜けのロビー空間を設けている。ここに創立

者米田吉盛先生の胸像が設置された。エントランスロビーの正面左壁には、再開発事業に募金された方々の銘板が掛けられることになっている。四階には、法人役員、教員研究員、教員研究室、資料室、さらに五階には経済貿易研究所が入り、三カ所の建物に分散していた経済学部の研究室がすべてこの三層部分に集約された。

最上階の八階は、全学共用の多目的会議室と三方に視野の広がる二つのラウンジや広いバルコニーが設置されている。ここからの眺望は圧巻で、ベイブリッジからM21まで横浜の

景観が一望できる。地階にはセキュリティセンターが設置され、全建物の防火、防災、エレベーター、警備等の情報を集約して、二四時間対応の中央監視と機械



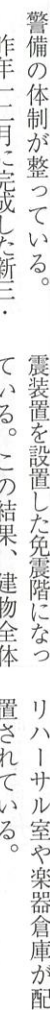
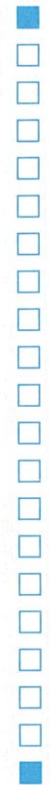
22号館(人間科学棟) 平成12年5月竣工  
地上4階・地下2階



23号館(新3・4号館) 平成12年竣工  
地上8階・地下2階



1号館(新1号館) 平成13年2月竣工  
地上8階・地下1階



警備の体制が整っている。昨年二月に完成した新三・四号館は地下二階、地上八階建て。四階から八階までは工学部の研究・実験室と大学院及び工学研究所、一階から三階までは一般講義室と情報化に対応した情報教育演習室などが配置された。講義室の一角には、裁判所の法廷を模した法廷教室が設置された。

地震装置を設置した免震階になっている。この結果、建物全体が免震構造になっているが、地震発生時に建物の揺れを観測する振動計や柱のひずみを測定する装置(ひずみ計)も建物内に設置してあり、地震の研究に利用される。

昨年五月に完成した人間科学棟は地下二階、地上四階建て。一階から四階には、スポーツ、文科系のクラブ・サークル室やミーティングルーム、地下一階は、健康科学スポーツセンターのトレーニングジムや測定室、同二階は音楽の

リハーサル室や楽器倉庫が配置されている。残りの公開空地は、旧三・四号館跡地に造成される。緑豊かなオープンスペースになり、憩いの場、交流の場として広く一般に公開される。近隣住民との交流や防災面などで、地域社会に一定の役割を果たし、開かれた大学の象徴となる。

少子化社会の中、新築なったキャンパスが、受験生獲得競争に大いに威力を発揮することを期待する。